



わたし 私がプラネタリウム解説者になったいきさつ

プラネタリウム解説者をしているこの私ですが、実は小学生2年の頃はプラネタリウムが嫌いでした。それはドーム中央にある星を映し出す装置が、目玉いっぱい宇宙人に見え怖かったのです。

そんな私は高校へ進学し放送部でアナウンスを中心に部活動に励んでいました。その高校で天文に詳しい人と友達になり、話をしているうちに星にも興味がわいてきました。友人の勧めで高校1年生の時に京都のプラネタリウムへ足を運びます。大きくなった私はもう装置が怖いということはありませんでした。

その京都のプラネタリウムでは江上賢三先生が解説員をされていました。江上先生は平らなスクリーンに星や星座の絵を写し星の動きを投影する江上式プラネタリウムをつくられたプラネタリウム界のパイオニアです。そんな先生から直に天文の話、それ以上にプラネタリウムに関する多くのことを教えていただきました。高校生の私に生解説のやり方まで教えてくれました。



大谷自作初期型プラネタリウム

ぜひ試してみたいと思った私は早速、紙製の小さな、それも高校生のお小遣いで

もできるような小さなプラネタリウムを作りました。それを家の押し入れに作った90cmのドームに据え付け、「光学センター」なんて言う名前を付け友人たちに一般公開しました。

部活でアナウンスを勉強していた私は話すことにも夢中になり、プラネタリウムの生解説にどっぷりはまってしまいました。ここから人生のレールがプラネタリウムへ向いてしまったようです。

2022年10月11日 (解説員：大谷 佑司)